

<b>タイトル</b>	2020年度 推薦入試 共同教育学部(教育心理専攻) 小論文
<b>評価のポイント</b>	<p>教育心理学に関わる論説文を素材とした問題である。進学校と中堅校を対象に、学習意欲や学習時間を調べた調査結果が紹介されている。データを適切に読み取った上で、「中堅校」の特徴を整理して論じることが求められる。総合的な思考力や表現力等を評価した。</p> <p>評価に当たっては、次のような点を特に重視した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査方法が適切に理解できているか。</li> <li>・調査データが適切に読み取れているか。</li> <li>・複数の観点から、「中堅校」の特徴を読み取っているか。</li> <li>・読み取った内容を整理して記述できているか。</li> <li>・求められていない内容(例:高校生の学習に関する受験者本人の意見など)を述べていないか。</li> <li>・原稿用紙の使い方、誤字脱字、文のねじれなど表現形式面で問題がないか。</li> </ul> <p>出典 濱中淳子 (2019). 学習行動の実相—高校3年間の変化を追う— 山村滋・濱中淳子・立脇洋介 著『大学入試改革は高校生の学習行動を変えるか—首都圏 10 校パネル調査による実証分析』ミネルヴァ書房, pp.37-48.</p> <p><b>小論文解答例</b></p> <p>図 1 を見ると、「がんばっている」に「あてはまる」「よくあてはまる」と回答した生徒は、進学校では 66.9%であるのに対して、中堅校では 52.8%である。ここから中堅校の方が学習意欲が低いことがわかる。</p> <p>学習意欲の差は学習時間にも表れている。図 1 を見ると、「平日学習時間が 1 時間ぐらい以上」の生徒が、進学校では 78.3%であるのに対して、中堅校では 25.9%しかいない。</p> <p>また、図 1 を見ると、「がんばっている」という意識と、実際の学習時間の間に食い違いがある。進学校では「勉強をがんばっている」生徒の 60.3%は、平日に 1 時間ぐらい以上学習している。これに対して中堅校では、「勉強をがんばっている」と回答しながら、平日に 1 時間ぐらい以上勉強している生徒は 20.3%しかいない。逆に、「がんばっている」と回答しながら、「30 分ぐらい以下」の生徒が、中堅校では 32.5%もいる。中堅校では、「がんばっている」と回答しても、実際の学習時間が少ない生徒が多い。</p> <p>最後に、テスト勉強の時間を比較してみる。図 2 を見ると、テスト期間中の学習時間が「3 時間ぐらい以上」の生徒が、進学校では 85.0%であるのに対して、中堅校では 75.7%である。中堅校の生徒も、テスト期間中は学習している。しかし普段の学習時間と組み合わせると、普段はほとんど勉強せず、テスト期間中だけ 3 時間ぐらい以上勉強する生徒が、進学校では 13.3%だが、中堅校では 53.2%もいる。従って中堅校の生徒の多くは、日頃は勉強せずに、試験期間中だけ勉強している。</p> <p>このように、進学校と比較すると中堅校では、意識面でも学習時間でも「がんばっている」生徒が少ない、「がんばっている」と回答していても実際の勉強時間は少ない、日頃は勉強せずにテスト期間中だけ勉強する、という特徴があることがわかる。(765文字)</p>